

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、自動車・自転車小売業、燃料小売業で大きく悪化傾向を弱め、飲食料品小売業でわずかに悪化傾向を弱めました。家庭用機械・電化機械器具小売業、スポーツ用品・娯楽用品・玩具小売業、木材・建築材料小売業は横ばいとなりました。一方、医薬品・化粧品小売業、書籍・文房具小売業、写真・時計・眼鏡・貴金属小売業で大きく悪化傾向を強め、その他小売業でも悪化傾向を強め、繊維・衣服・身の回り品小売業でもわずかに悪化傾向を強めました。全体としては-65と前期に比べて8ポイント悪化傾向を強めました。売上額、収益は減少傾向を強めました。販売価格は下降傾向を弱め、仕入価格は上昇傾向から下降に転じました。在庫は過剰感からほぼ適正となりました。資金繰りは若干窮屈感が強まりました。残業時間は減少傾向を強め、人手は若干過剰感が強まりました。設備の状況は若干不足感を弱めました。設備投資を実施した先は車両を中心に、全体では14%と前期比わずかに1ポイント増加しました。

来期の見通し

業況は、書籍・文房具小売業で悪化傾向から良好に転じるとみえています。また飲食料品小売業、医薬品・化粧品小売業、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業で悪化傾向が弱まるとみえています。繊維・衣服・身の回り品小売業、家庭用機械・電気機械器具小売業、スポーツ用品・娯楽用品・玩具小売業、木材・建築材料小売業は横ばいとなりそうです。一方、自動車・自転車小売業、燃料小売業、その他小売業では悪化傾向が強まりとみており、全体的には-66と1ポイントわずかに悪化傾向を強めそうです。売上額、収益はともに減少傾向を弱めるとみえています。価格面では、販売価格で若干下降傾向を強め、仕入価格は下降傾向がわずかに弱まりそうです。在庫は今期ほぼ適正から不足に転じるとみており、資金繰りは横ばいとなりそうです。残業時間は減少傾向が弱まり、人手は横ばいとみえています。設備の状況は不足感が弱まりそうです。設備投資については、事務機器などで車両を中心に9%が実施予定とし、今期に比べて5ポイント減少するとみえています。

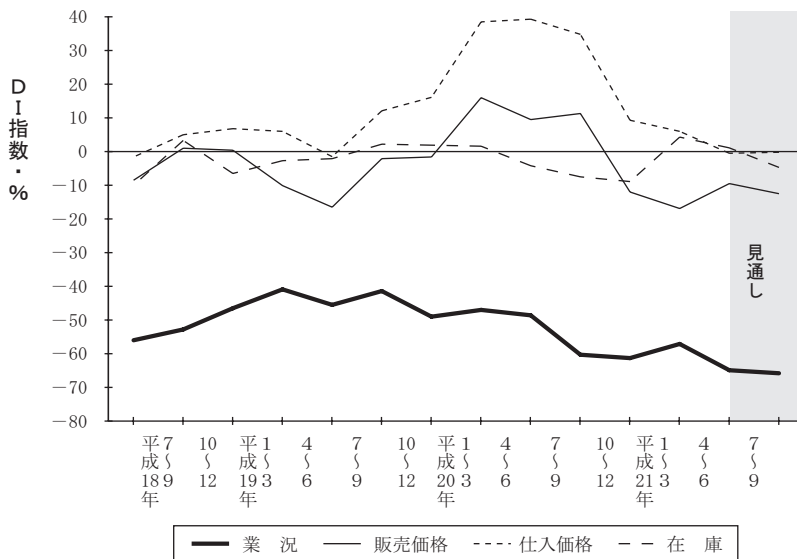
調査員のコメント

- 同業者間との競争が激化しているため、独自のサービス充実、価格交渉、技術力の向上等により顧客確保に努める。
(事務機器・システム販売業)
- 商店街の集客力が低下しているため、売上は減少している。コスト削減だけでなく新規先の開拓をしなければならない。(眼鏡販売業)

景況の推移



主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(21年4月~6月) / 前期(21年1月~3月)

		△100	△90	△80	△70	△60	△50	△40	△30	△20	△10	0	10	20	30	40	
繊維・衣服・身の回り品	業況	○●															
飲食料品	業況	●○															
書籍・文房具	業況	○←●															

経営上の問題点	1位	売上の停滞・減少(1)	68%
	2位	大型店との競争の激化(3)	35%
	3位	同業者間の競争の激化(3)	30%

当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(1)	69%
	2位	売れ筋商品を取り扱う	38%
	3位	品揃えを改善する(2)	32%

*()は前回順位